



〈発行〉名古屋芸術大学
子どもコミュニティセンター

ごあいさつ

今年度より、子どもコミュニティセンター長となりました安部 孝（あべ たかし）と申します。教育学部では、保育・幼児教育、教育学、道徳教育などを教えています。

コロナが明け、ようやくにこにこワークショップに、子どもたちの遊ぶ姿、元気な声が戻ってきました。何より、嬉しく思っています。

本センターでは、保育・教育、芸術を学ぶ大学の環境と特性を活かし、利用される皆様に、本センターならではの楽しさと心地よさを提供できるよう努めて参ります。

どうかお子さんと一緒に、“一息つく気晴らし”のつもりで、気軽にお出かけください。

本学には、教育、保育、発達などを専門とする教員たちがおります。今後、ご紹介し、交流いただける機会がもてるようにしたいと考えております。また、それぞれの専門を活かし、子育てに関する相談に応じるよう心がけておりますので、いつでもお声がけください。

本センターで過ごされた時間が、いつか振り返られたとき、「子育て・子育ての楽しい思い出」となるよう、精一杯努力して参ります。よろしくお願いたします。（子どもコミュニティセンター長：安部孝）

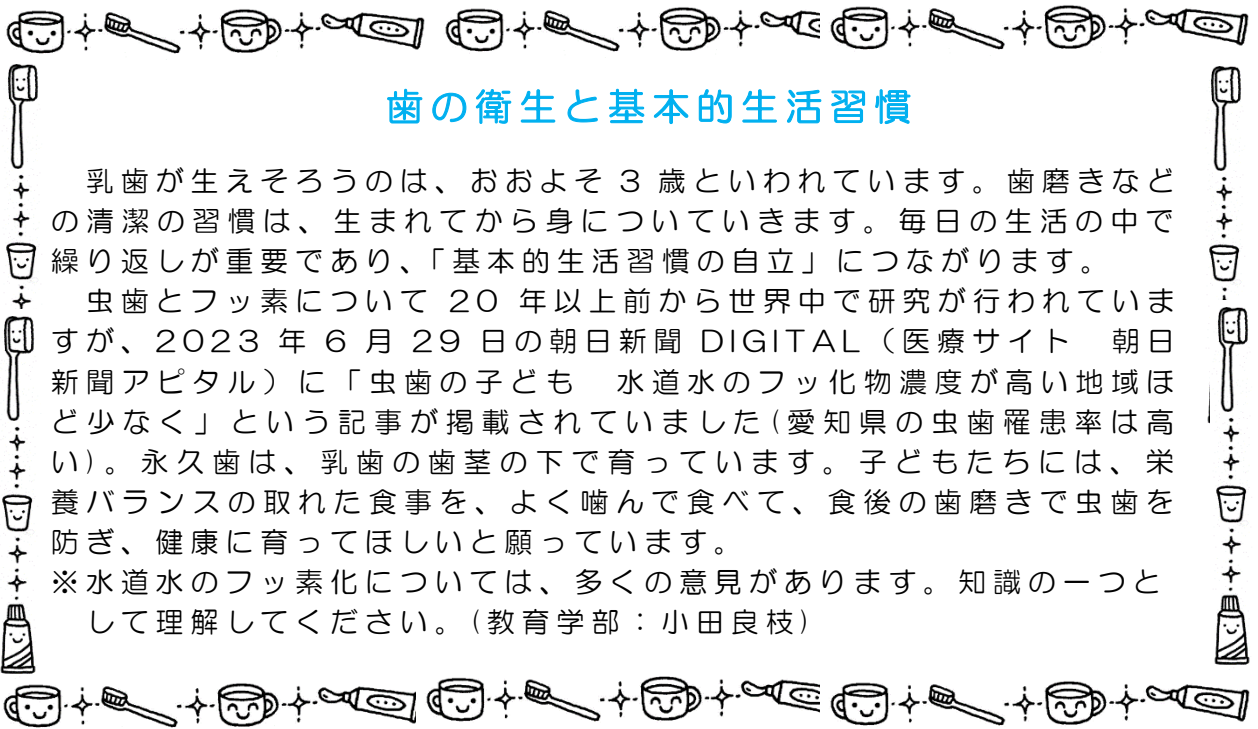


モンテッソーリ教育について

将棋の藤井聡太さんの活躍により、彼が幼い頃に受けていたモンテッソーリ教育が脚光を浴びました。モンテッソーリ教育は、イタリアのマリア・モンテッソーリによって考案されたものです。モンテッソーリは1870年(明治3)にイタリアで生まれ、男尊女卑が強い時代の中、ローマ大学で学び医師となりました。精神科医として知的に遅れのある子どもたちに接する中で、子どもたちが自分で発達したい思い、「感覚に訴えて動きを伴った活動」をしていることに気が付きました。エドワール・セガンなどの教具を子どもたちに提供したところ、子どもたちはめきめき力をつけていきました。障害児に良いものは健常児にも良いかもしれないと、モンテッソーリは再度ローマ大学で教育学を学び直しました。そして発達障害児に対して医療と教育が合体した「療育」というシステムを形作ったといえます。

（教育学部：安藤香）



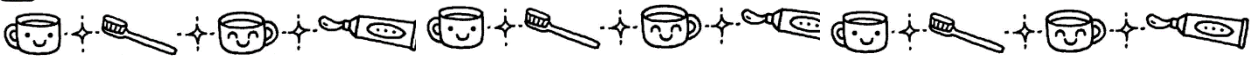


歯の衛生と基本的生活習慣

乳歯が生えそろうのは、おおよそ3歳といわれています。歯磨きなどの清潔の習慣は、生まれてから身につけていきます。毎日の生活の中で繰り返し重要であり、「基本的生活習慣の自立」につながります。

虫歯とフッ素について20年以上前から世界中で研究が行われていますが、2023年6月29日の朝日新聞DIGITAL（医療サイト 朝日新聞アピタル）に「虫歯の子ども 水道水のフッ化物濃度が高い地域ほど少なく」という記事が掲載されていました（愛知県の虫歯罹患率は高い）。永久歯は、乳歯の歯茎の下で育っています。子どもたちには、栄養バランスの取れた食事を、よく噛んで食べて、食後の歯磨きで虫歯を防ぎ、健康に育ててほしいと願っています。

※水道水のフッ素化については、多くの意見があります。知識の一つとして理解してください。（教育学部：小田良枝）



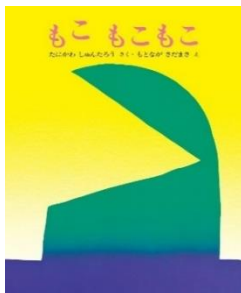
声で出会う本、絵本

絵本とふつうの本の違いってなんですか。絵本は絵がついているところが違う。もちろん、それもありますね。でももう一つ大切な違いがあります。それは、「声で出会う本」ということ。

自分で文字を追う本と違い、まだ字が読めないうちに、周りのおとなたちに読み聞かせてもらい、その声をとおして出会うのが絵本です。絵本を選ぶときには、ぜひ、声にだしたときの音の美しさや楽しさ、おもしろさにも気をつけてみてください。擬音語だけでできた不思議な絵本『もこもこもこ』全編「か」という音だけでできている(!)『かかかかか』など、楽しい作品がたくさんあります。

そういえば、瀬田貞二さんの名訳『三びきのやぎのがらがらどん』も、どうしてこんなに聞いていて気持ちがいいのかと思ったら、本文がしっかり五七調になっているんですね。

声・音・リズム。読み方に工夫を凝らすと、読み聞かせるほうもすっかり楽しくなりますね。（教育学部：早川知江）



もこもこもこ
作：谷川俊太郎
絵：元永定正
出版社：文研出版

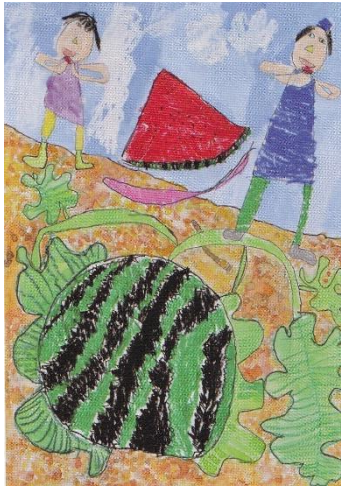


かかかかか
作・絵：五味太郎
出版社：偕成社



三びきのやぎの
がらがらどん
絵：マーニャ・ブラウン
訳：瀬田貞二
出版社：福音館書店





※作品について(写真参照)

作品名:「いつもおいしいスイカをありがとう」一般社団法人日本宝くじ協会 社会貢献事業「ふるさとの田んぼと水 子ども絵画展 2018 作品集 のうそん大好き ふるさと子ども美術館」より

作者:柴田通世(みちよ)5歳
名古屋市立第三幼稚園

子どもの絵

大きなスイカが力強く描かれています。茎や葉も勢いよく描かれていて生命力にあふれています。画面上には、スイカを食べている姿が描かれています。真っ赤に熟れて甘くて美味しかったのでしょうか。手にもったスイカのおいしさを伝えたくて中央には、鮮やかな赤で大きくカットされたスイカを描きました。縞模様の皮もていねいに表現されており、5歳児とは思えぬ巧みさです。この時期の成長段階では、自分にとって興味関心のある物を大きく描く誇張表現が見られるようになります。店頭に並んだスイカではなく、太陽の下、はちきれんばかりに実った畑のスイカの姿に子どもながら大きく感動したのでしょうか。スイカを手前に大きくのびやかに表現し、斜めに地面を引いて、夏空が大きく広がる大胆な構図には奥行きすら感じます。

(教育学部:鍵野いずみ)



子どもと音楽 季節の歌・夏



夏の子どもの歌は、「おばけなんてないさ」「アイスクリームの歌」が思い浮かびます。子どもの歌は、日常の遊びや生活から生まれてくると言われています。自由に外遊びができなくなったコロナ禍で、子どもたちの豊かな感性と表現力がどれだけ身についたのでしょうか。古くから子どもたちの間で歌われて心に刻まれた伝承童謡。作者も成立年代も不詳ですが、祖父母から孫へという縦の系路と、子どもの遊び集団という横の系路を通じて変容をほどこされつつ継承されてきた「わらべうた」は、残念ながら、ますます後退の方向をたどっています。流行の配信音楽に親しんだ子どもたちには「ディズニー」や「アンパンマン」や様々な歌が洪水のように耳に入ってきます。「音楽教育とウェルビーイング(健康・幸福・福祉)」ということばをよく耳にしますが、コロナ禍を経験した私たち大人が、生活と音楽に結びついた「わらべうた(例えば、ほたるこい)」を、歌の原点としてもう一度見直してみたいものです。(教育学部:星野英五)



子育てよもやま話

お祭り、プール、海、山へおでかけなど思い出がたくさんできそうな季節です。先日、8歳の誕生日を迎えた我が子の乳幼児の思い出と言えば、9か月頃の人見知り真っ盛りの夏祭り。可愛い浴衣を着て楽しみに出かけたところ、人込みの多さにびっくり「ぎゃー」と大泣きして泣き止まず、急ぎよすぐに引き返しました。しがみついて離れず、徒歩30分ほどずっと抱っこで帰宅しました。今となっては笑い話です。生後7~8か月以降の人見知りは、赤ちゃんとお母さんとの間に特別な絆ができてきた証。この関係づくりが愛着、発達の土台にも大きく繋がる・・・ということはわかっているながらも、この頃の子育ては無我夢中の毎日、楽しむ余裕はありません……。それでもスヤスヤ眠る子の寝顔や、無邪気な笑顔に癒され、疲れが吹き飛ぶことも。大変だったエピソードが懐かしい宝物の一つです。大きくなった娘に話すと、「えっ～！そうだったの？」と照れながらも嬉しそう。子育てのなかでのいろいろなエピソード、ご家族にとって思い出深いものになりますように。

(教育学部：吉村美由紀)



ご案内

にこにこワークショップは、1歳以上の未就園児のお子様と保護者の方が大学施設の部屋で遊ぶ場所として活用していただいています。自由遊びでは、室内の気に入った遊具を使って、おうちの方と一緒に遊びます。遊んだものを片付けてからは、みんなで集まってテーマ活動を行います。製作、集団遊び、体を動かす遊びなど、時期によっては水遊びをしたり、戸外で遊んだり、お祭りなどもします。いろいろな活動でお願いしていることは、お子さんにさせるのではなく、まずはおうちの方が楽しんでいただくことです。自分のお子さんがいろいろな子どもたちに関わったり、おうちの方が他の方と子育てのことなどのお話をされたりなどすることも、にこにこワークショップを活用していただくことの一つかと思えます。

【前期 主な活動報告】

- 戸外遊び（大学芝生広場） ● 製作（カタツムリ、七夕飾り） ● 水遊び
- 夏まつり ● サーキット遊び ● 大学の先生によるミニミニ講座
- 学生による読み聞かせ、集団遊びなど

【後期 主な活動】

- 手作りおもちゃやハロウィンのマントなどの製作、「お父さんと遊ぼう」、戸外遊び、サーキット遊び、フリー・デー、大学の先生によるミニミニ講座などを予定しています。

※にこにこワークショップ参加等につまましての詳細は、名古屋芸術大学のホームページで確認してください。

★にこにこワークショップ担当者・・・林妙子、酒井早苗

★にこにこワークショップ事務担当者・・・新原幸